

造影剤「イオパミドール 370「F」」の適応外使用について

当院では、消化管造影検査および嚥下機能検査において、水溶性ヨード造影剤である「ガストログラフィン[®]」を使用しています。

2026 年 4 月、「ガストログラフィン[®]」において暫定管理値を超えるニトロソアミン類が検出されたことに伴う対応により、安定供給の見通しが立たない状況となっており、メーカーより限定出荷が実施されているとの報告があります。

これを受け、関連通知などを踏まえ、当院では代替造影剤として血管造影用水溶性ヨード造影剤「イオパミドール 370「F」」を適応外使用することで対応します。

【対象となる医療行為】

消化管造影・嚥下機能検査を行う患者様

【実施期間】

「ガストログラフィン[®]」の限定出荷解除による安定出荷まで

【手技検査方法】

「イオパミドール 370「F」」は、「ガストログラフィン[®]」の添付文書に記載された用法・用量と同量、または担当医が検査内容や患者様の状態に応じて適切な濃度に調整したうえで、経口または消化管内に投与します。

使用にあたっては、検査中は患者様の状態を十分に確認し、検査後も経過を観察するなど、安全に十分配慮して実施します。

【期待される効果】

消化管造影検査や嚥下機能検査において、病態の診断や適切な治療方針の決定に役立つ有用な画像を得ることができます。

【安全性・有効性】

・組織への刺激が少ない造影剤です。

「イオパミドール 370「F」」はイオン性ヨード造影剤であり、組織への刺激が少ないことが知られています。また、海外では消化管穿孔が疑われる症例などに対する水溶性造影剤として使用実績があり、その有効性および安全性が報告されています。

・誤嚥時のリスク軽減が期待できます。

検査中に誤って気道へ流入した場合（誤嚥）でも、肺炎などの重篤な合併症を起こしにくいとされています。また、嚥下造影検査における低浸透圧性非イオン性ヨード造影剤の有効性および安全性についても報告されています。

【イオパミドールを使用する際の注意点】

発現頻度は低いとされていますが、まれに副作用が生じることがあります。
そのため、検査中は患者様の状態を十分に観察し、安全に配慮して実施します。

副作用について

主な副作用として、下痢、吐き気、発疹、かゆみ、じんましんなどが報告されています。
また、まれに血圧低下、呼吸困難、アナフィラキシーショックなどの重篤な副作用が起こることがあります。

当院では、副作用などの発現時に速やかに対応できる体制のもとで本剤を使用しています。
万が一、副作用や気分不良が生じた場合には、直ちに必要かつ適切な医療処置を行います。

＊過去にイオパミドールで副作用が出たことがある方は必ず担当医に申し出てください

【同意の撤回について】

同意はいつでも撤回することができます。撤回を希望される場合は、お申し出ください。

【費用負担について】

この薬剤を使用した検査は保険診療の適応はありませんが、費用負担に関しては、保険診療と同等に扱います。

【問い合わせ先】

本検査に関するご質問等がありましたら以下の連絡先までお問合せください。

千葉西総合病院 各診療科担当医

(〒270-2251 千葉県松戸市金ヶ作 107-1 047-384-8111)